

「高知県橋梁会平成 20 年度第 2 回研修会」報告

高知県橋梁会理事 安見和夫

去る 2008 年 8 月 29 日（金），高知市本町にある高知グリーン会館において，土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催により本年度第 2 回目の研修会が実施された。参加者は 73 名で第 1 回に続きたくさんの技術者の参加になった。今回は高知工業高校の生徒 4 名と教師 1 名も受講された。生徒の皆様には，研修会で得た知識を活かして，将来高知県内で活躍されるように期待します。



高知県会理事の森下伸裕氏による司会



四国地方整備局土佐国道事務所副所長の原田康氏から「橋梁マネジメント」と題し，橋梁の損傷事例の紹介があり，これからはデータ取得，予測，評価，対策のサイクルを回す仕組みを作ることが重要との説明があった。また，予防保全によりライフサイクルコストを最小化する橋梁マネジメントシステムが紹介された。（13:40～14:20）



研修会に入る前に，昨年 8 月 30 日 11 時 53 分に逝去された前・高知県橋梁会会長玉井佐一先生に参加者全員で黙祷を捧げた。



（株）第一コンサルタンツ調査役の西田南海男氏により「東南海地震アクションプログラム他」と題し，十勝沖地震に携わった経験より地震発生時の情報収集が非常に重要であるなど具体的な説明があった。（14:30～15:10）



高知県橋梁会会長の右城猛氏による開会の挨拶。橋梁の予防・保全技術の重要性が指摘された。



ピーシー橋梁(株)本社工務グループ長田中光典氏により「アルミ床版を用いた歩道拡幅」と題し、構造部材が軽量なアルミ材を使用して、荷重の低減や耐食性が高くトータルコストが安くできる歩道拡幅工法の説明があった。(15:10~15:40)



ショーボンド建設(株)の六車崇司氏



ショーボンド建設(株)四国支店技術課長の原田徹氏他2名より「最新の補修補強材料・工法について」と題し、20年前のコンクリート塗装の検証や落橋防止システム(せん断ストッパー・緩衝ベルト・完全無水切断工法)の新技術の説明があった。(15:50~16:20)



ニッタ(株)本社営業部技術サポートチームの尾崎真司氏より「新規開発された橋梁補修補強材料について」についての概要説明があった後、南部敦男氏より機能内蔵型SNゴム支承について、従来の積層型ゴム沓に比べ凹凸部を設けることで変位制限機能を有しその部分にゴムを密閉することで荷重支持性能の向上と支承高さの低減が可能な製品を開発したという説明があった。また、近藤翼氏からは乾式止水材バリアレックスに関する説明があった。(16:20~16:50)



ショーボンド建設(株)の三浦浩之氏



機能内蔵型SNゴム支承を説明する南部敦男氏



機能内蔵型 S N ゴム沓の模型



祖谷のかずら橋を見学している様子



活発に質問する受講者



熱心に聴講する 73 名の参加者



高知県橋梁会理事の岡本圭吾氏より「平成 20 年度高知県橋梁会現場見学会報告」と題し、徳島県鴨島で建設中の P C スプライスホロー桁形式(国内 2 例目)の橋梁と祖谷のかずら橋の現場見学会の報告があった。(16:50 ~ 17:00)



研修会終了後、高知新阪急ホテルの屋上ビアガーデンで、研修会講師と高知県橋梁会理事とで反省会を兼ねた懇親会が開かれた。